

とやまデザインによる工芸等の魅力向上に向けた検討ととりまとめの概要及び今後の進め方について

平成30年度：当検討委員会において、伝統工芸品等の魅力向上に向けた「工芸の各分類における優先的な取組内容」等について整理
 平成31年度：平成30年度にまとめた「工芸の各分類における優先的な取組内容」について検討の深堀を行い、具体的な事業プランを策定

I. とやまデザインによる工芸等魅力向上検討委員会の設置について

◇趣旨 デザイン活用やブランド化による本県の伝統工芸品を中心とした工芸等（以下、「伝統工芸品等」）の魅力向上に向けた課題・取組むべき方向性などを検討

II. 産地組合等へのヒアリング 概要（現状と課題の整理）、III. 魅力向上の取組内容の検討・整理（総論）

1 魅力発掘と商品開発（現状と主な課題）

- デザイナー等と連携した商品開発も行われているが、産地組合の会員の合意が得られる商品の開発は困難
- （主な取組内容）
- デザイナー人材の育成・確保や県内事業者とのマッチング機能の強化
- 産地組合が中心となった異分野交流等による技術向上や商品開発等に向けた取組みの強化

2 販路拡大（マーケティング戦略）（現状と主な課題）

- 消費者ニーズの把握（海外も含む）や販売戦略も含めてインターネットでできるデザイナー、専門家等との連携が重要
- （主な取組内容）
- 有力な顧客となる可能性のある対象への販売戦略の検討
- 伝統工芸の優れた技術を活用した新たな需要の開拓
- 製品や作品の魅力伝えるものづくり現場見学、作家等との交流を通じた販売
- 成功企業の事業モデル等の横断的普及事業の検討
- 商品企画や販路開拓など、産地問屋の機能や事業者の取組みを補完する組織の検討

3 ブランディング・情報発信（現状と主な課題）

- 各伝統工芸品等の情報を発信し、製品の魅力や価値を如何に消費者に伝えるかが重要
- （主な取組内容）
- SNS等も活用したメディアミックスによるPRの強化
- 本県の職人のグローバルでの評価獲得
- 工芸作品の発表・評価、魅力発信の場の創出

4 先端産業・先端技術との融合（現状と主な課題）

- 生産工程への先端技術導入、大学や産業支援機関と連携した素材や製品の科学的根拠の検証が重要
- （主な取組内容）
- 産業支援機関による研究・開発成果の提供や先端設備使用等による技術支援

5 生産性の向上（現状と主な課題）

- 「多品種少量生産」、「手作業が中心」などの理由から、機械の導入による生産の効率化の期待は小さい
- （主な取組内容）
- 機械化等による効率化・量産化による製品の安定供給体制の検討

6 人材育成・確保、技術承継（現状と主な課題）

- 深刻な後継者不足で、技術の承継が懸念される
- （主な取組内容）
- 異分野の人材交流での職人スキルの向上、技術の承継
- 作家の創作活動で培われた高い技術の伝承

IV. 工芸の分類と各分類の優先的な取組項目

1 工芸の分類

各論の検討を進めるにあたって、本県の工芸をその主体や生産過程などの相違から、次の4つに分類

2 工芸の分類毎の優先的な取組項目

1のア～ウの各工芸の分類毎の優先的な取組項目を下表のとおり整理

工芸の区分	ア. 伝統工芸品 (※1)	イ. 伝統工芸品の技術等を活用した工芸品	ウ. 作家による作品 (※2)
1 魅力発掘と商品開発	○	○	△
2 販路拡大（マーケティング戦略）	○	○	○
3 ブランディング・情報発信	○	○	○
4 先端産業・先端技術との融合	○	○	△
5 生産性の向上	△	○	△
6 人材育成・確保、技術承継	○	△	○

※ 表中「○」印は優先的な取組項目、「△」印は中長期的な取組項目
 ※1 「ア. 伝統工芸品」の産地構造は、「①分業制」をとる産地と、「②1社完結型」（＝1事業者が最終製品まで一貫生産）の産地、「③職人完結型」（職人1人で最終製品まで一貫生産）の産地が存在し、具体的な取組は個別に検討
 ※2 作家の作品には、「造形表現」と「産業工芸表現」とがあり、これらを含む

V. 各分類における優先的な取組内容の検討・整理（各論）

ア. 伝統工芸品

〈基本的な考え方〉「伝統的な技法等による製品の承継」

- 本県の優れた伝統工芸品は、「素材を通じ構築された技の伝承」であり、本県の貴重な財産として、本県の工芸全体の魅力向上等にも繋がっており、産地組合が中心となりこれを承継

◇優先的な取組内容(抜粋)

- 「1 魅力発掘と商品開発」について
 - 産地組合の会員がアイデアや技術を持ち寄って商品開発を進める取組みの強化
- 「2 販路拡大（マーケティング戦略）」について
 - 富裕層や訪日外国人等への伝統工芸の技が光る精巧な商品の販売等、販売対象に応じた販売戦略の策定、推進
 - 文化財の再現や修復など、伝統的な高い技術を活用した新たな事業分野（販路）の開拓
- 「3 ブランディング・情報発信」について
 - 世界の一流ブランドに職人を派遣し連携事業を実施するなど、本県から「世界の名匠」を輩出
- 「4 先端産業・先端技術との融合」について
 - 三次元測定機等の先端設備の活用による名品のアーカイブ化や「匠の技」、「勘」のデータ化
- 「6 人材育成・確保、技術承継」について
 - 職人と学生、様々な異業種の人材との交流の場の継続的な創出

⇔ 相乗効果

イ. 伝統工芸の技法等を活用した工芸品

〈基本的な考え方〉「『デザイン工芸』の推進」

- 伝統工芸品の技法等による製品に「素材」の可能性とデザインを融合した現代の工芸として、本県の「デザイン工芸」(※)を推進 ※『デザイン工芸』：「素材」の可能性とデザインを融合した現代の工芸

◇優先的な取組内容(抜粋)

- 「1 魅力発掘と商品開発」について
 - デザイン人材交流・育成事業、商品開発事業等の推進とデザイン人材のデータベース化
- 「2 販路拡大（マーケティング戦略）」について
 - 本県の伝統工芸品の特性等を踏まえた商品開発、販路開拓を行う専門商社的なベンチャー企業の創出やこの様な機能を持つ企業との連携を推進
- 「3 ブランディング・情報発信」について
 - SNS利用者に影響力のあるインフルエンサーを通じた情報発信など、販売対象に応じたPR
- 「4 先端産業・先端技術との融合」について
 - 産業支援機関で研究・開発した先端素材等、新素材と伝統工芸の技法の活用による新商品開発
- 「5 生産性の向上」について
 - 先端技術等の導入による市場の需要へのタイムリーな対応

⇔ 相乗効果

ウ. 作家による作品

〈基本的な考え方〉「作家による独創的な作品づくりの推進」

- 作家の独創的な作品は本県の工芸の魅力向上・発信に多大な影響を与えており、その魅力が広く世界に発信・評価・伝承されるよう、作品発表の場の創出・魅力発信などの取組みを推進

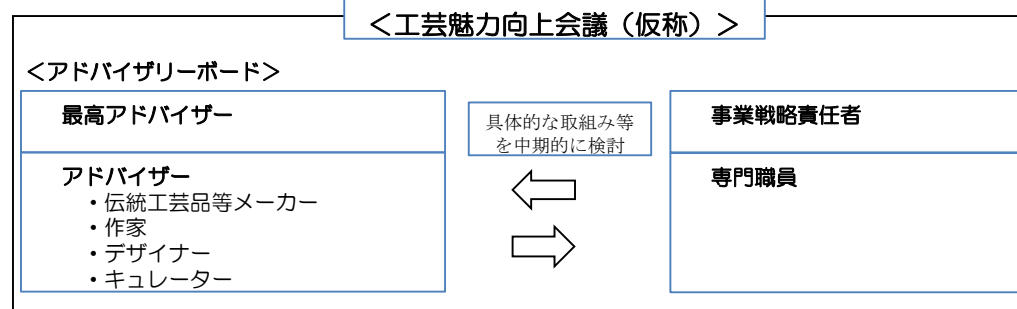
◇優先的な取組内容(抜粋)

- 「2 販路拡大（マーケティング戦略）」について
 - 作家本人が直接作品を解説し、販売する機会の設定
- 「3 ブランディング・情報発信」について
 - 「国際工芸アワードとやま(仮称)」等、作品の発表・評価、魅力等を発信する機会の創出
 - 作家のエポックメイキングな作品の美術館等による収蔵、展示
- 「6 人材育成・確保、技術の承継」について
 - 作家の創作活動で培われた高い技術を伝統工芸等に活かし、新風を吹き込む仕組みの検討

とやまデザインによる工芸等の魅力向上

VI. 今後の推進体制

- 本県の伝統工芸等の魅力向上の取組みを着実に推進するため、当検討委員会の検討のとりまとめについて、関係者と共有し、一体となって、今後の具体的な取組を進めることが重要
- 今後、上記「V. 各分類の優先的な取組み」を中心に、具体的な取組み等（事業プラン）を中期的に検討するため、事業戦略責任者の下に専門職員を配置し、伝統工芸品等の製造メーカーや作家、デザイナーなど、関係分野の方々の参画による新たな組織を立ち上げる。



◇検討スケジュール

- H31.4～5：産地組合等との意見交換
- H31.7：第1回 工芸魅力向上会議
 - ・ 「優先的な魅力向上の取組み」の検討
- H31.10：第2回 工芸魅力向上会議
 - ・ 中間とりまとめ
- H32.3：第3回 工芸魅力向上会議
 - ・ とりまとめ等

とやまデザインによる工芸等の魅力向上に向けた検討とりまとめの概要及び今後の進め方について

平成30年度

○当検討委員会において、伝統工芸品等の魅力向上に向けた「工芸の各分類における優先的な取組内容」等について整理

平成31年度

○平成30年度にまとめた「工芸の各分類における優先的な取組内容」について検討の深堀を行い、具体的な事業プランを策定

I. とやまデザインによる工芸等魅力向上検討委員会の設置について

◇趣旨 デザイン活用やブランド化による本県の伝統工芸品を中心とした工芸等（以下、「伝統工芸品等」）の魅力向上に向けた課題・取組むべき方向性などを検討

II. 産地組合等へのヒアリング 概要（現状と課題の整理）、III. 魅力向上の取組内容の検討・整理（総論）

1 魅力発掘と商品開発

（現状と主な課題）

- ・デザイナー等と連携した商品開発も行われているが、産地組合の会員の合意が得られる商品の開発は困難

（主な取組内容）

- ・デザイン人材の育成・確保や県内事業者とのマッチング機能の強化
- ・産地組合が中心となった異分野交流等による技術向上や商品開発等に向けた取組みの強化

3 ブランディング・情報発信

（現状と主な課題）

- ・各伝統工芸品等の情報を発信し、製品の魅力や価値を如何に消費者に伝えるかが重要

（主な取組内容）

- ・SNS等も活用したメディアミックスによるPRの強化
- ・本県の職人のグローバルでの評価獲得
- ・工芸作品の発表・評価、魅力発信の場の創出

5 生産性の向上

（現状と主な課題）

- ・「多品種少量生産」、「手作業が中心」などの理由から、機械の導入による生産の効率化の期待は小さい

（主な取組内容）

- ・機械化等による効率化・量産化による製品の安定供給体制の検討

2 販路拡大（マーケティング戦略）

（現状と主な課題）

- ・消費者ニーズの把握（海外も含む）や販売戦略も含めてコーディネートできるデザイナー、専門家等との連携が重要

（主な取組内容）

- ・有力な顧客となる可能性のある対象への販売戦略の検討
- ・伝統工芸の優れた技術を活用した新たな需要の開拓
- ・製品や作品の魅力を伝えるものづくり現場見学、作家等との交流を通じた販売
- ・成功企業の事業モデル等の横断的普及事業の検討
- ・商品企画や販路開拓など、産地問屋の機能や事業者の取組みを補完する組織の検討

4 先端産業・先端技術との融合

（現状と主な課題）

- ・生産工程への先端技術導入、大学や産業支援機関と連携した素材や製品の科学的根拠の検証が重要

（主な取組内容）

- ・伝統工芸品等と新素材や新技術の融合による新分野への進出、新商品開発の検討
- ・産業支援機関による研究・開発成果の提供や先端設備使用等による技術支援

6 人材育成・確保、技術承継

（現状と主な課題）

- ・深刻な後継者不足で、技術の承継が懸念される

（主な取組内容）

- ・異分野の人材交流での職人スキルの向上、技術の承継
- ・作家の創作活動で培われた高い技術の伝承

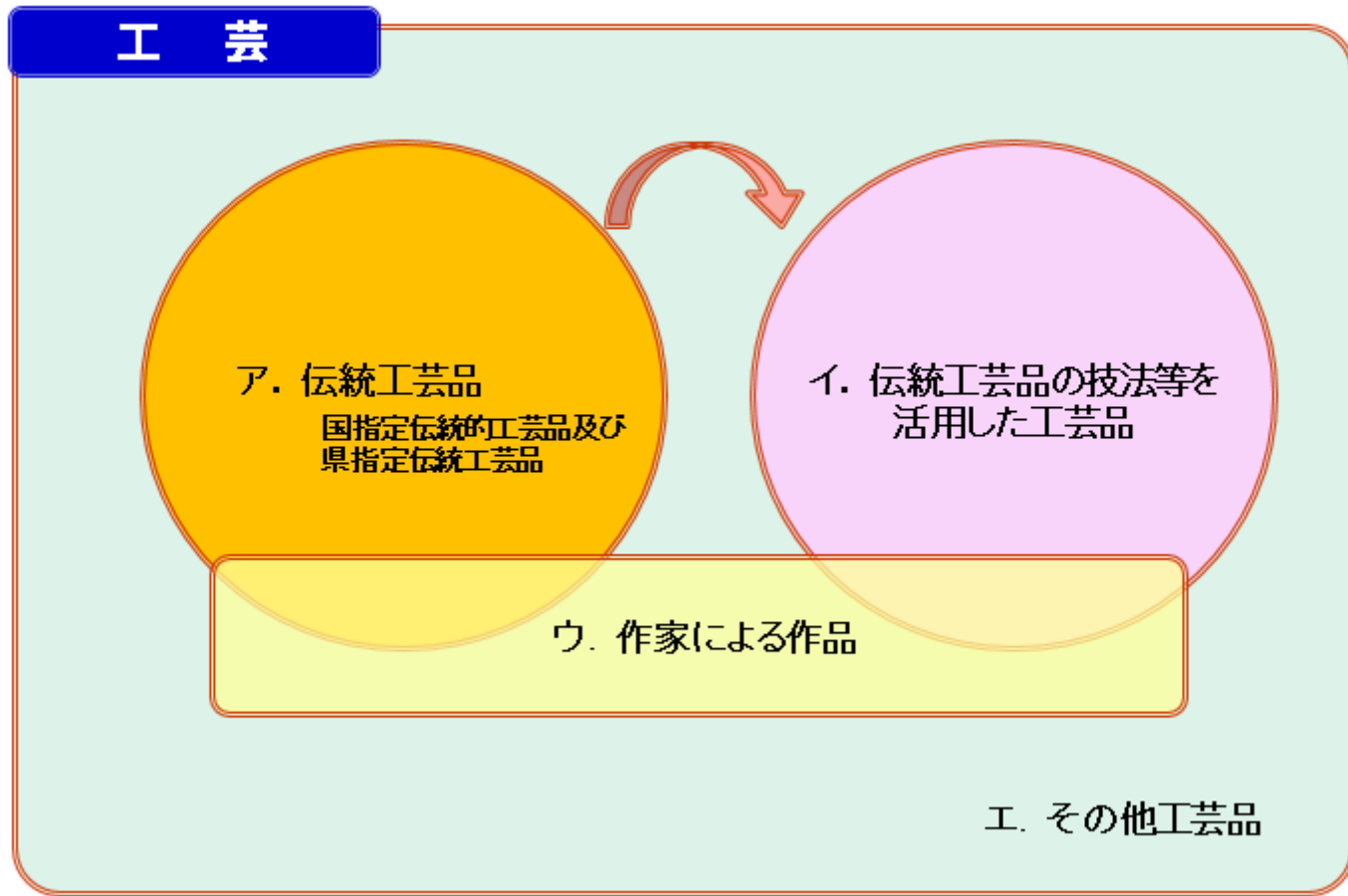
IV. 工芸の分類と各分類の優先的な取組項目

1 工芸の分類

各論の検討を進めるにあたって、本県の工芸をその主体や生産過程などの相違から、次の4つに分類

(工芸の分類)

ア.伝統工芸品 (国指定伝統的工芸品及び県指定伝統工芸品)
イ.伝統工芸品の技法等を活用した工芸品 (アの伝統工芸品の技法等を活用した工芸品)
ウ.作家による作品 (作家により制作される作品)
エ.その他工芸品 (職人により制作されるア～ウ以外の工芸品)



2 工芸の分類毎の優先的な取組項目

「1」で分類した工芸の分類のうち、伝統工芸品を中心とした「ア」～「ウ」の分類について、魅力向上の基本的な考え方を整理し、その課題解決に向けて優先的に取組む項目を下表のとおり整理

(工芸の分類毎の魅力向上の基本的な考え方)

工芸の分類	基本的な考え方
ア. 伝統工芸品	伝統的な技法等による製品の承継
イ. 伝統工芸品の技術等を活用した工芸品	『デザイン工芸』(※)の推進
ウ. 作家による作品	作家による独創的な作品づくりの推進

※『デザイン工芸』：「素材」の可能性とデザインを融合した現代の工芸

(工芸の分類毎の優先的な取組項目)

魅力向上の取組項目	ア.伝統工芸品 (※1)	イ.伝統工芸品の 技術等を活用し た工芸品	ウ.作家によ る作品(※2)
1 魅力発掘と商品開発	○	○	△
2 販路拡大(マーケティング戦略)	○	○	○
3 ブランディング・情報発信	○	○	○
4 先端産業・先端技術との融合	○	○	△
5 生産性の向上	△	○	△
6 人材育成・確保、技術承継	○	△	○

※ :表中「○」印は優先的な取組項目、「△」印は中長期的な取組み項目

※1:「ア.伝統工芸品」の産地構造は、「①分業制」をとる産地と、「②1社完結型」(=1事業者が最終製品まで一貫生産)の産地、「③職人完結型」(職人1人で最終製品まで一貫生産)の産地が存在し、具体的な取組みは個別に検討

※2:作家の作品には、「造形表現」と「産業工芸表現」とがあり、これらを含む

とやまデザインによる工芸等の魅力向上に向けた検討とりまとめの概要及び今後の進め方について

V. 各分類における優先的な取り組み内容の検討・整理（各論）

ア. 伝統工芸品

〈基本的な考え方〉「伝統的な技法等による製品の承継」

・本県の優れた伝統工芸品は、「素材を通じ構築された技の伝承」であり、本県の貴重な財産として、伝統工芸品を中心とした本県の工芸全体の魅力向上、発信、ブランド力向上等にも繋がっており、産地組合が中心となりこれを承継

〈主な課題等〉

①産地問屋の主導による商品開発や販路開拓の減少、②産地全体の売上拡大に結び付く商品開発は困難、③人材育成・確保、技術の承継

◇優先的な取り組みの内容(抜粋)

「1 魅力発掘と商品開発」について

・産地組合が中心となって、会員企業がアイデアや技術を持ち寄り、商品開発を進める取り組みの強化

「2 販路拡大（マーケティング戦略）」について

・富裕層や訪日外国人等への伝統工芸の技が光る精巧な商品の販売等、販売対象に応じた販売戦略の策定、推進
・文化財の再現や修復など、伝統的な高い技術を活用した新たな事業分野(販路)の開拓

「3 ブランディング・情報発信」について

・世界の一流ブランドに職人を派遣し連携事業を実施するなど、本県から「世界の名匠」を輩出

「4 先端産業・先端技術との融合」について

・三次元測定機等の先端設備の活用による名工の優れた作品等のアーカイブ化や「匠の技」、「勘」のデータ化

「6 人材育成・確保、技術承継」について

・職人と学生、様々な異業種の人材との交流の場の継続的な創出

イ. 伝統工芸の技法等を活用した工芸品

〈基本的な考え方〉「『デザイン工芸』の推進」

・伝統工芸品の技法等による製品にデザインや異素材を活用する事業者がでてきており、「素材」の可能性とデザインを融合した現代の工芸として、工芸の魅力を発信し、新しい市場を獲得している。このようなデザインを活用した取り組みを進める事業者等の振興を図り、本県の「デザイン工芸」を推進

〈主な課題等〉

①工芸の魅力を引き出すデザイナー等の発掘と企業とのマッチング、②伝統工芸技術とデザインを活用した新商品開発は一部の先進的な企業に限定的、③多様な消費者への的確な情報発信、④一定量の製品が求められる市場へのタイムリーな商品供給

◇優先的な取り組みの内容(抜粋)

「1 魅力発掘と商品開発」について

・デザイン人材交流・育成事業、商品開発事業等の推進とデザイン人材のデータベース化
・デザイン人材と県内の伝統工芸事業者等とのマッチング事業の実施

「2 販路拡大（マーケティング戦略）」について

・デザインの活用などにより、独自で商品開発、販路開拓に成功しているモデル的な企業の取り組みの産地内での横断的な展開の検討
・本県の伝統工芸品の特性等を踏まえた商品開発、販路開拓を行う専門商社的なベンチャー企業の創出やこのような機能を持つ企業との連携を推進

「3 ブランディング・情報発信」について

・SNS利用者に影響力のあるインフルエンサーを通じた情報発信など、販売対象に応じたPR

「4 先端産業・先端技術との融合」について

・産業支援機関で研究・開発した先端素材（セルロースナノファイバー等）など新たな素材と伝統工芸の技法等の活用による新商品の開発

「5 生産性の向上」について

・先端技術等の導入による市場の需要へのタイムリーな対応

ウ. 作家による作品

〈基本的な考え方〉「作家による独創的な作品づくりの推進」

・作家の独創的な作品は本県の工芸の魅力向上・発信に多大な影響を与えており、その魅力が広く世界に発信・評価・伝承されるよう、作品発表の場の創出・魅力発信などの取り組みを推進

〈主な課題等〉

①生産性の向上、消費者ニーズよりも、作家には、いかに作品の価値を高めるかが重要、②作家の作品に触れ、理解を深める機会の創出

◇優先的な取り組みの内容(抜粋)

「2 販路拡大（マーケティング戦略）」について

・作家本人が直接作品を解説し、販売する機会の設定

「3 ブランディング・情報発信」について

・「国際工芸アワードとやま(仮称)」等、作品の発表・評価、魅力等を発信する機会の創出
・作家のエポックメイキングな作品の美術館等による収蔵、展示

「6 人材育成・確保、技術の承継」について

・作家の創作活動で培われた高い技術を伝統工芸等に活かし、新風を吹き込む仕組みの検討

相乗効果

相乗効果

とやまデザインによる工芸等の魅力向上

VI. 今後の推進体制

- 本県の伝統工芸等の魅力向上の取組みを着実に推進するため、当検討委員会の検討のとりまとめについて、関係者と共有し、一体となって、今後の具体的な取組みを進めることが重要
- 今後、上記「V. 各分類の優先的な取組み」を中心に、具体的な取組み等（事業プラン）を中期的に検討するため、事業戦略責任者の下に専門職員を配置し、伝統工芸品等の製造メーカーや作家、デザイナーなど、関係分野の方々の参画による新たな組織を立ち上げる。

<工芸魅力向上会議（仮称）>

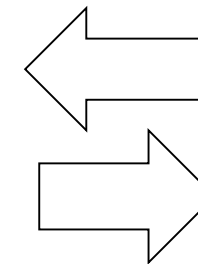
<アドバイザリーボード>

最高アドバイザー

アドバイザー

- 伝統工芸品等メーカー
- 作家
- デザイナー
- キュレーター など

具体的な取組み等
を中期的に検討



事業戦略責任者

専門職員

◇検討スケジュール

H31.4～5：産地組合等との意見交換

H31.7：第1回 工芸魅力向上会議（「優先的な魅力向上の取組み」の検討）

H31.10：第2回 工芸魅力向上会議（中間とりまとめ）

H32.3：第3回 工芸魅力向上会議（とりまとめ等）